

Strix 11 : 245-251 (1992)

アメリカコハクチョウとコハクチョウの 家族群の連続越冬記録 — 第三報 —

村瀬美江¹

岩手県北上市に愛称「クロチャン」と呼ばれるアメリカコハクチョウと、そのつがいで愛称「カアサン」と呼ばれるコハクチョウが4年間連続して幼鳥をともなって同一地点に渡来し越冬していること、およびその家族群の昨シーズンまでの渡来状況を前報、前々報で報告した(村瀬 1990, 1991)。本報では「クロチャン」家族群の1991年～1992年のその後の状況と、部分的に判明した、この家族群の越冬のための南下と繁殖のための北上の飛翔ルートについて報告する。この個体同定法ならびに観察場所については、村瀬(1990)を参照されたい。

1. 1991年10月～1992年5月の「クロチャン」家族群の渡来状況.

前報に1991年10月～1992年5月の記録を加えた「クロチャン」家族群および1988年以降のアメリカコハクチョウ、アメリカコハクチョウとコハクチョウとの雑種、ナキハクチョウの北上市における渡来状況を表1にまとめた。

1991年度は「クロチャン」家族群のなかでは、まず11月1日に1988年生まれの「ニタ」が新堤に飛来した。しかし「ニタ」はわずか1日だけ滞在して飛去した。次いで11月3日と4日に、1990年生まれの「ピンクイー」と「ニイチャン」が新堤に飛来した。この2羽は、2年連続して渡来している。1日おいて11月6日に「クロチャン」と「カアサン」が4羽の幼鳥を連れて新堤に飛来した。「クロチャン」は7シーズン、「カアサン」は6シーズン連続して渡来したことになる。4羽の幼鳥はそれぞれ「エル」、「キキ」、「チャコ」、「スージー」と命名された。「クロチャン」と一緒に飛来した6羽はわずか1時間たらず休息して、先着の2羽と、珊瑚橋下流の北上川に移り、その後もほとんど北上川に定住していた。これは今回、新堤の北側道路の拡巾工事と池に面した観光小屋の建築工事とがちょうど飛来期と重なったことによるものと考えられる。図1は今シーズンの「クロチャン」家族である。11月9日には、青森県上北郡の間木堰から連絡がはいり、「クロチャン」家族の1989年生まれの「ゲン」が間木堰にはいったとのことで、すでに「ゲン」は南下していることがわかった。11月28日には1988年生まれの「ナガレ」が昨シーズン同様にアメリカコハクチョウの「チビクロ」と同伴で、新堤から東に300m離れた大堤公園の池に飛来した。「ナガレ」は4年連続、「チビクロ」は3年目の渡来となった。今回はこの2羽には1歳のアメリカコハクチョウが同行してきて、「マギー」と命名された。「ナガレ」と「チビクロ」

1992年11月20日受理

1. 〒024 北上市常磐台2-2-17

表1. 「クロチャン」家族群の渡来状況 (1992年5月現在).
 Table 1. Winter records of "Kuro-chan" family.

期間 愛称	1985. 10 ~1986. 5	1986. 10 ~1987. 5	1987. 10 ~1988. 5	1988. 10 ~1989. 5	1989. 10 ~1990. 5	1990. 10 ~1991. 5	1991. 10 ~1992. 5
1) 「クロチャン」	3/18~4/17 (30日間)	10/23~4/15 (174日間)	10/23~4/15 (175日間)	10/23~4/5 (165日間)	12/8~4/10 (122日間)	10/29~4/12 (166日間)	11/6~4/2 (149日間)
2) 「カアサン」		10/23~4/15 (174日間)	10/23~4/15 (175日間)	10/23~4/5 (165日間)	12/8~4/10 (122日間)	10/29~4/12 (166日間)	11/6~4/2 (149日間)
3) 「ブイ」			10/23~4/15 (175日間)	(行方不明)			
3) 「ヤマ」			10/23~4/15 (175日間)	12/20~4/5 (116日間)	12/13~4/10 (118日間)	12/7~4/12 (127日間)	12/1~4/3 (125日間)
3) 「オジサン」				10/23~4/3 (163日間)	(死亡)		
3) 「ニタ」				10/23~4/5 (165日間)	11/16~2/11 (87日間)	12/15~3/8 (84日間)	11/1 (1日間)
3) 「キボッチ」				10/23~4/5 (165日間)	11/2~3/2 (120日間)	(行方不明)	
3) 「ナガレ」				10/23~4/5 (165日間)	11/2~3/2 (120日間)	12/13~4/5 (114日間)	11/28~4/2 (127日間)
3) 「ゲン」					12/8~4/10 (122日間)	10/29~4/12 (166日間)	12/18~4/2 (107日間)
3) 「ニイチャン」						10/29~4/12 (166日間)	11/4~4/2 (151日間)
3) 「マユ」						10/29~4/12 (166日間)	12/8~4/2 (117日間)
3) 「ピンキー」						10/29~4/12 (166日間)	11/3~4/2 (152日間)
3) 「エル」							11/6~4/2 (149日間)
3) 「キキ」							11/6~4/2 (149日間)
3) 「チャコ」							11/6~4/2 (149日間)
3) 「スージー」							11/6~4/2 (149日間)
1) 「チビクロ」	1/25~4/5 (70日間)	(福島・大池)	12/13~4/5 (114日間)	11/28~4/2 (127日間)			
3) 「アメコモドキ」		3/11~3/22 (12日間)	3/23~3/24 (2日間)	3/27 (1日間)			
1) 「マギー」				11/28~4/2 (127日間)			
4) 「ベッター」				3/29~4/24 (26日間)			

[註]

- 1) アメリカコハクチョウ
- 2) コハクチョウ
- 3) アメリカコハクチョウと
コハクチョウの雑種
- 4) ナキハクチョウ

[附]

その他黒色嘴峰の白鳥



図1. 第5回子連れ渡来.

Fig. 1. The fifth visit of the family, 1991~1992.

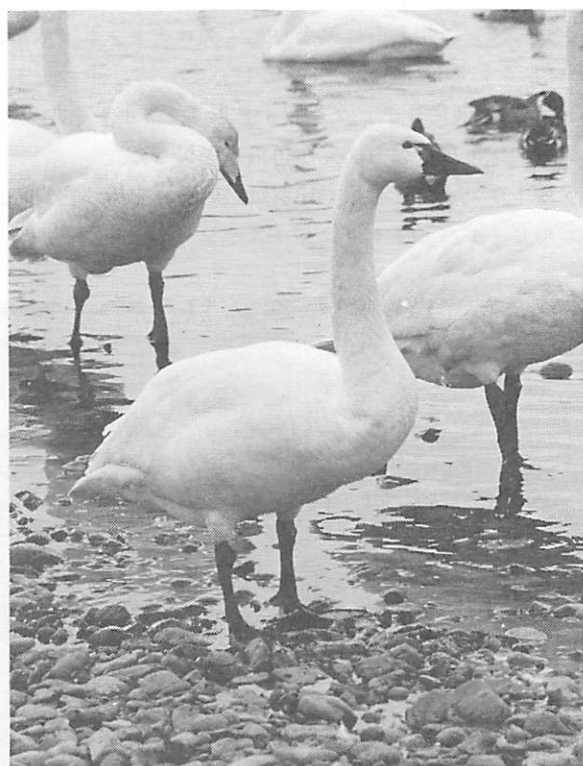


図2. “マギー” (アメコ).

Fig. 2. “Magii” (*C. c. columbianus*).

は、翌日に「クロチャン」家族群と合流した。「マギー」は当初は警戒して餌にも近づかなかったが、10日後には「クロチャン」家族群の仲間入りをし、追われることはなかった。図2が「マギー」である。その後12月1日に1987年生まれの「ヤマ」が新堤に飛来し、12月8日に1990年生まれの「マユ」が北上川で見つかった。そして「クロチャン」の子としては最後になるが、1989年生まれの「ゲン」が間木堰で1か月あまりも過ごした後、12月18日になって北上川に飛来してきた。

1991年度の越冬シーズンの「クロチャン」家族群は「チビクロ」、「マギー」が加わり、例年にもまして群の個体が接近していることが多かった。図3ではわずか15m程の中に13羽もが密集している。

この家族群は3月30日から連日、北上川と新堤とを往復していた。そして4月2日に新堤に集結し、「ヤマ」1羽を残して渡りの途についた。「ヤマ」は翌3日に、北上川に立寄ったあと北に向けて旅立った。なお、4月2日に「チビクロ」、「マギー」を含む4羽が間木堰で観察され、その後「クロチャン」家族と確認された群は、4月7日には北海道空知支庁の美唄市西方に当たる茶志内沼で7羽が、4月12日には宗谷支庁のクッチャロ湖で8羽が樺太方向へ飛び去るのが観察された。

2. 1991年度の「クロチャン」家族群.

1) 1990年の越冬シーズンに北上市に渡来した「クロチャン」家族群は、「クロチャン」をはじめ、「カアサン」、「ヤマ」、「ニタ」、「ナガレ」、「ゲン」、「ニイチャン」、「マユ」、「ピンキー」の親子9羽と、他に「チビクロ」、「アメコモドキ」を加えて合計11羽であった。1991年の越冬シーズンにはその100%が再飛来を果たした。

2) 上記11羽のうち「カアサン」を除く10羽が黒い嘴峰を持つ白鳥で、今シーズンはさらに本年度幼鳥「エル」、「キキ」、「チャコ」、「スージー」の4羽と、新入の「マギー」、



図3. アメコの嘴峰パターンをもつ個体の群 (13羽).

Fig. 3. Swans with the bill color pattern of the Whistling Swan.

北上を訪れた黒い嘴峰の白鳥 (1987.10~1992.5) 略図					
クロ チヤ ン	(初) 86 3 18		マ ユ	(初) 90 10 29	
ヤ マ	(初) 87 10 23		ピ ン キ ー	(初) 90 10 29	
ブ イ	(初) 87 10 23		エ ル	(初) 91 11 6	
オ ジ サ ン	(初) 88 10 23		キ キ	(初) 91 11 6	
ニ タ	(初) 88 10 23		チ ヤ コ	(初) 91 11 6	
キ ボ ツ チ	(初) 88 10 23		ス ー ジ ー	(初) 91 11 6	
ナ ガ レ	(初) 88 10 23		チ ビ ク ロ	(初) 89 1 25	
ゲ ン	(初) 89 12 8		ア メ コ モ ド キ	(初) 90 3 11	
ニ イ チ ヤ ン	(初) 90 10 29		マ ギ ー	(初) 91 11 28	

【註】 灰色は幼鳥時。

図4. 北上を訪れた黒い嘴峰の白鳥 (1987.10~1992.5) 略図.

Fig. 4. Swans having black bill pattern in Kitakami.

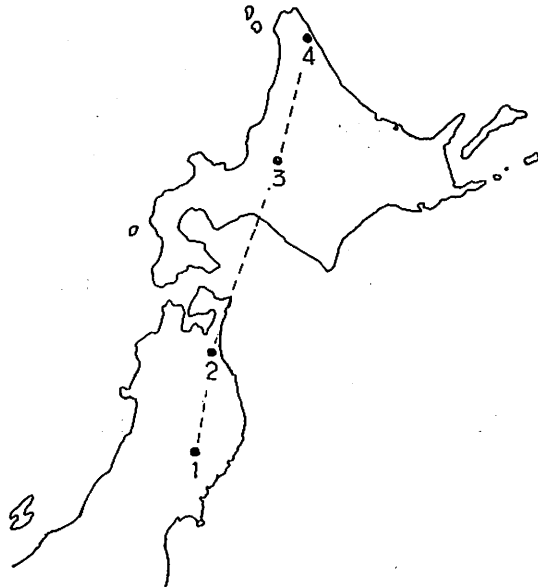


図5. 「クロチャン」家族群の飛翔ルート。

Fig. 5. Flying route of "Kuro-chan" family.

「ベッター」の2羽を加えて、黒い嘴峰を持つ白鳥は、北上だけで16羽観察された。このうち3羽がアメリカコハクチョウ、12羽がアメリカコハクチョウとコハクチョウとの亜種間雑種で、1羽がナキハクチョウであった。

3) 「クロチャン」と「カアサン」のつがいは今シーズンまでの5年間に北上市に同行した幼鳥の数は14羽で、そのうち3羽が死亡、あるいは行方不明であるが、残る11羽は現在も北上市に渡来し続けている。図4に「クロチャン」とその子供、およびほかのアメリカコハクチョウと雑種の嘴峰略図を示す。同一の両親から生まれた亜種間雑種の嘴峰パターンはたいへん類似しているが、左右の嘴峰パターンがまったく相似な個体はいない。

4) 今シーズン、「クロチャン」家族群が、南下、北上の途中に立寄った地点を図5に示すと、飛翔ルートはほぼ直線的になる。このうち間木堰は昨シーズンも南下時に「ナガレ」、「チビクロ」が立寄り、今シーズンは南下時に「ゲン」が、北上時には「チビクロ」を含む4羽が立寄っており、「クロチャン」家族群にとっては渡りにおいての重要な地点と考えられる。

5) 福島県には過去2度にわたって、アメリカコハクチョウとコハクチョウとのつがいが幼鳥を連れて渡来し越冬したと報告されているが(三上 1988, 八木 1988)、いずれもその翌年には親は飛来しておらず、そこでは亜種間雑種の数は増加していない。「クロチャン」と「カアサン」のつがいが5年連続して幼鳥を連れて、同一地点に渡来していることは、亜種間雑種の生態や行動を研究するうえで貴重な例と考えられる。

引用文献

村瀬美江. 1990. アメリカコハクチョウとコハクチョウのつがいおよび家族群の連続越冬記録.

- 村瀬美江. 1991. アメリカコハクチョウとコハクチョウのつがいおよび家族群の連続越冬記録 — 第Ⅱ報 — Strix 10 : 274-279
- 三上士郎. 1988. コハクチョウの嘴峰について. 日本の白鳥 13 : 68-80
- 八木 博. 1988. 高野池のアメリカコハクチョウについて. 日本の白鳥 13 : 94-96

Wintering records of a “mated” pair of Bewick’s and Whistling Swans,
Cygnus columbianus bewikii and *C. c. columbianus*
in Kitakami, Iwate. — Part III —

Yoshie Murase¹

A “mated” pair of Bewick’s and Whistling Swans have migrated with their juveniles to Kitakami-city, Iwate Pref., since 1987. They visited this place with two juveniles in 1987, four in 1988, one in 1989, three in 1990 and four in 1991. The father bird of this family, named Kuro-chan, has been observed at this place every winter for these seven years.

1. 2-2-17 Tokiwadai, Kitakami-shi, Iwate 024